

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第449号 平成24年12月5日

朝には紅顔ありて

12月2日発生した山梨県の中央自動車道笠子トンネル内の天井崩落は、9人が亡くなるという大惨事となりました。

朝(あした)には紅顔ありて

夕(ゆうべ)には白骨となれる身なり

という言葉があります。

この言葉は、浄土真宗の蓮如上人の言葉と伝えられていますが、朝には元気に家を出た筈なのに、一瞬にして帰らぬ人となってしまう、これが人の世の無常というものだと頭では知りつつも、このような不条理には怒りさえ覚えます。

しかし同時に、私は、吉田松陰の「四時の順環」という言葉も忘れる事が出来ません。吉田松陰は29歳余という短い生涯でしたが、彼は「人間の寿命には定めがない。だから、何歳で死んでも「四時あり」と見るべきである。」と述べています。四時とは春夏秋冬、季節の循環という事ですが、天命によって定められた人の一生を見れば、10歳で死ぬものはその中に10の、20歳にはおのずから20の四時があり、時空に囚われる事はないという趣旨かと思えます。

今はただ、今回の事故によって亡くなった方々のご冥福を祈るばかりですが、結局、人というものは今を一生懸命に生きるより他はないのだと、改めて思い知らされた気がします。

さて、今回の事故は、2日午前8時頃、笠子トンネル内のコンクリート製の天井板が約330枚、長さにして約130メートルにわたって崩落したというもので、天井板は1枚が約1トンもあり、車を直撃すればひとたまりもなかった事でしょう。

崩落事故の原因について、高速道を管理している中日本高速道路の吉川専務は「36年目に起きた事から考えて、老朽化であったと思う」としています(12月3日付朝日新聞)が、点検の不備は免れないのではないかと考えられます。

国は、笠子トンネルと同様の構造になっている全国のトンネル49本の緊急点検を高速道路会社などに指示していますが、ご遺族の胸中を思うと言葉もありません。

また、笠子トンネル崩落の一報を耳にした時、1996年2月16日に発生した豊浜トンネル崩落事故の事を思い出しました。この事故では、20人もの方々が亡くなっています。

事故現場は、古平町側の坑口付近で、最大高さ70メートル、最大幅50メートル、最大厚さ13メートル、重量推計2万7千トンもの岩盤が崩落しました。この岩盤の下敷きになった方々は、まさに即死状態で、何かを考えるいとまもなかった事でしょう。

このトンネル事故の原因は、地下水が湧出している部分の厳冬期の凍結などによって岩盤が亀裂を起こし、それが徐々に成長していった事によるとされていますが、地元では、以前から壁に亀裂が走っていたり、石が落下したりしていたため崩落の危険性を危惧していたといわれています。

今回の笠子トンネルの崩落事故、そして、16年前に起こった豊浜トンネル崩落事故に共通するのは、我が国の危機管理意識の脆弱さではないかと思います。天井崩落という最悪の事態を想像していない、いい換えれば、安全に対する過信があるように感じます。

関係者には、事故の原因はもとより、安全対策が万全だったか徹底的に究明して頂きたいと思います。それなくしては、今回のような不幸な被害者の発生を防ぐ事は出来ないと思います。(塾頭：吉田 洋一)